

全国 保健師長会 だより

東日本大震災から10年を迎えた令和3年11月27日(土)、福島県福島市を会場に、全国をオンラインで結び、第43回代議員総会を開催しました。

冒頭、会長あいさつとして、「一昨年来の新型コロナウイルス感染症は保健師活動において大きな影響を及ぼし、先が見えない不安と闘う時期もありましたが、全国の保健師は常に課題と向き合いながら、取り組んできました。公衆衛生を貫く行動を実践できたことやIH EATとの連携、HERISSYS活用に加えSNSの活用やICT利用など、新たな動きもスピードアップさせ、コロナ禍においても住民に寄り添い、支援を続けたことに成果がありました」と申し上げました。

認・見直し、緩急のある健康危機への対応、ネットワークの強化が備えとなります」と締めくくられました。

【特別講演】

「東日本大震災および原発事故による喪失とレジリエンス」多機関連携による福島県相双地区の精神保健医療福祉活動の実際から」と題して、福島県立医科大学看護学部准教授の大川貴子氏からご講演をいただきました。

原発事故により避難対象区域となり、震災後しばらくは精神科医療が皆無となった福島県相双地区における精神保健医療福祉活動を通して、地域のレジリエンスを強化する源について、関係者へのインタビューやドキュメントを交えてお話しくださいました。

「当時、相双地区に支援に入った福島県立医科大学の心のケアチームのメンバーが中心となって、NPO法人『相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会』を立ち上げ、2012年1月に、『相馬広域こころのケアセンターなごみ』を開設しました。当センターでは、地域のニーズに応じた精神科

第43回全国保健師長会 代議員総会報告と 会員数の動向

全国保健師長会 会長 清田 啓子

来賓祝辞では、厚生労働省健康局長の佐原康之氏、厚生労働省健康局健康課保健指導室長の五十嵐久美子氏、全国保健師長会会長の内田勝彦氏、公益社団法人日本看護協会会長の福井トシ子氏、一般財団法人日本公衆衛生協合理事長の松谷有希雄氏、福島県知事代理保健福祉部長の伊藤剛氏、福島市長の木幡浩氏から期待を込めたメッセージをいただきました。

【基調講演】

「大規模災害に備えた平時の保健活動」平時に力を備え、平時の活動をいかすために」と題して、自治医科大学看護学部教授の春山早苗氏からご講演をいただき、「1求められる健康危機管理能力」2想定外の状況におけるマネジメント」3平時に意識して高めておく

医療・保健・福祉サービスの提供や震災後に想定されるアルコールや自殺問題などに対応できるように活動してきました。その中で、アルコールプロジェクトは、「やってみる！ 出向いていく！ つないでいく！」をスローガンに、地域住民への啓発、男性の集いの活動等、一次予防から三次予防までさまざまな活動を展開するとともに、地域連携および支援力の強化に取り組んでいます」

また、関係者へのインタビューでは、「利用者の生活に深く入り込み、豊かな生活を取り戻そうと支援する中で、震災による課題の顕在化、緊急的介入の必要性などの課題が見えてきました」と語られました。

まとめに、「本震災は、精神医学のおよび心理社会的問題から公衆衛生を改善する機会を与えてくれました。地域のレジリエンス、すなわち、『持ちこたえる力』『新しいものを生み出していく力』の源は、人と人とのつながりです。個人でも組織でも『支える』こともあれば、『支えられる』こともあり、対話をすれば、新しいアイデアが生まれ

力」4 大規模災害に備えたこれからの活動」についてご説明がありました。

・講演概要

「自治体保健師の標準的キャリアアラダーにおいては、保健師の自己評価では健康危機管理能力が一番低い状況です。健康危機発生時に求められるコンピテンシーとは、高いパフォーマンスを上げる人に共通の行動特性をいい、単なる知識や技能だけでなく、さまざまな心理的、社会的なりソースを活用して特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができ力のことです。災害時、統括保健師には、リーダーシップ、情報知識情報収集を含む)の形成と運用、両方を用いながら計画を策定し活動を推進していく実践能力が求められる



会場準備、運営にご尽力された福島県支部の皆さん

てきます。平日頃から、いろいろな人とのつながりを大切にし、組織、立場を超えて一緒に取り組んでいこうとする姿勢が、地域の力を強化させていきます」と締めくくられました。

【総会】

午後の総会では、書面評決により総会が成立していることを確認した後、審議が行われ提案された議案は、すべて承認されました。また、令和3年度事業報告についても各部会等から報告がありました。令和4年度の活動テーマは、「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」保健師活動の原点から住民とともに創る未来から」です。また、役員・推薦委員の改選があり、会長、監事1名、推薦委員3名が



基調講演での質疑応答の様子

して大規模災害に備え、これまでの経験を生きかし、自治体における健康危機管理体制の確

選任されました。次期会長には松本珠実氏(現大阪市支部長)が就任されることになりました。

最後に次期開催県である滋賀県支部代議員総会理事からあいさついただき閉会となりました(オンライン491名参加)。

【会員数の動向】

令和3年10月現在の全国保健師長会の会員数は5478人です。会員数は増加傾向にありましたが、令和3年は77人減少しました。各部会会員数の割合は、政令指定都市等部会の38・7%が最も多く、次いで市町村部会が31・7%、都道府県部会が28・6%となっています。ホームページに「入会のご案内」や活動状況が掲載されていますので、ご覧いただき、未加入の方はぜひご加入をお願いいたします。

全国保健師長会では、保健医療福祉等の多様な機関との連携を強化しながら、各ブロック活動の充実強化や調査研究事業等の推進を図り、次世代を担う保健師の成長を支援することにより、保健師の専門性の向上を図ってまいります。

(文責)広報委員会